

第450回鉄鋼流通問題懇談会

2019年10月23日(水) 14:30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、新潟、福岡地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇10月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長

3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2020年1月 日() 14:30～

於：茅場町「

」

	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向 (景況感)	<p>伊藤忠丸紅鉄鋼</p> <p>国内需要については全ての業界で向動き低調、7月まで荷動き好調だった関東地区の建築設備向けの需要は、8月以降の荷動きが低調に転じている。19年12月～20年3月にかけて、オゾンポンプ案件の引き渡しまつた。建築設備向けの鋼管需要は20年6月までは出てきている。管材商の語では、19年12月～20年6月までは都内における設備案件は需要減になる可能性があるとの事だが、各社各様の見解があり、不明確な点も多い。一方で現状の荷動きが低調なプラント設備向けの需要が、2020年1月以降からの引合案件が出てきている模様。鋼管問屋は、仕入メーカーからの2019年秋以降に実施される直上後の明細がこれからは納入される予定となっており、市況転換が必要。2019年12月以降で値上げ実施を唱えているものの、メーカー間で値上げ時期が異なっている為、値上の足並みが揃わない可能性がある状況。</p>	<p>岡谷鋼機</p> <p>2019年8月末薄板三品在庫は457万トンであり、先月比14.9万トンの増加であった。内訳としてはメーカー在庫が215.3万トン(先月比18.1万トン増)問屋在庫が91.8万トン(先月比1.5万トン減)メーカー在庫が149.7万トン(同1.7万トン減)であった。品種別では、軟延鋼板が218.2万トン(同5.2万トン増)冷延鋼板が96.2万トン(同3.7万トン増)表面処理鋼板が142.4万トン(同6万トン増)であった。9月末の三品在庫は例年通り(同6万トン増)であった。9月末の在庫は不安定であり、海減の予想ではあるが、海外市場動向が不安定であり、海外ミルの供給姿勢を含め今後注視が必要である。</p>	<p>JFE商事</p> <p>8月末の全国厚中板在庫は454千トんで前月比11,751トンの増となった。受入は前月比22,306ト減少、出荷も前月比29,082ト減少。8月は稼働日数減の影響もあり、盛り上がり欠けた。在庫率は前月比53.9ポイント上昇し、297.1%と大幅に上昇した。建築、産機など総体的に需要の落ち込みが見られ、市況も弱含みで推移しているが、土分層は国土強靱化計画及び災害復旧関係の需要が底堅く推移している。</p>	<p>兼松トレーディング</p> <p>棒鋼 鉄スクラップの下落により、先安感が台頭している中、ゼネコンは、当用買入にて指値はいっそう厳しくなっている。しかしながら、関東地区においては、電力業界の再編や工場設備工事を背景とするメーカーの営業姿勢の転換や一部メーカーの設備トラフルから、市況下落の阻止めとなる可能性もある。形鋼 需要期に入り、建築、土木ともに需要は堅調にあると思われ、盛り上がり欠けた状況ともなっている。市中在庫は、6月に以降徐々に減少しており、歯抜けサイズも有り、適正水準にあると思われる。価格については、一部電炉メーカーの値下げを受けて、臨ん張っていた市況も軟化傾向となっており、安値も散見されている。</p>
2. 需要業動向	<p>自動車：19年8月の四輪車生産台数/68.0万台 (前年同月比▲2.0%)。19年9月の国内販売台数/54.8万台 (前年同月比+12.9%)。19年8月の完成車輸出台数/35.0万台 (前年同月比▲5.9%)。建設機：19年8月の建設機械総出荷額/2,036億円 (前年同月比▲5.7%)。内訳として国内/16.8%。輸出▲16.8%。建設の生産計画は、下期に入り大幅な生産調整を実施している。・建築：19年8月 住宅/7.6万戸 (前年同月比▲7.1%)。19年8月 非住宅/362万㎡ (前年同月比▲5.6%)。土木：19年8月 公共土木工事受注額/33.3百億円 (前年同月比+0.7%)。19年8月 民間土木工事受注額/30.9百億円 (前年同月比+7.4%)。造船：19年8月 起工量/73万G/T (前年同月比+2.9%)。19年9月 輸出船隻約量/84万G/T (前年同月比+26.3%)。19年9月末 手持工事量/2,172万G/T (前年同月比▲15.1%)。</p>	<p>8月度の自動車用鋼材需要(輸入除く)は38万9千9トン(前年同月比6.8%増)となった。乗用車は31万7千トン(前年同月比4.9%増)トラックは7万トン(同15%増)となった。8月度の民生用電気機器の国内出荷金額は2,178億円(前年同月比11.7%)と2ヶ月ぶりのプラスとなった。製品別の国内出荷金額を見ると、電気冷蔵庫は430億円、前年比95.8%と2ヶ月連続のマイナスとなったが、ルーフエアコンは766億円、同116.8%と2ヶ月ぶりのプラス、電気洗濯機は328億円、同125.3%と14ヶ月連続のプラスとなった。8月は東日本を中心に気温が涼しくなり、ルームエアコンが高水準となった。電気冷蔵庫も引き続き好調を維持し、民生用電気機器全体として過去最高水準となった。令和8月の住宅着工戸数は76,094戸で、前年同月比で7.1%減となった。荷家については前年同月比で11ヶ月ぶりの減少(前年同月比1.6%減)。荷家については前年同月比で12ヶ月連続の減少(前年同月比17.5%減)。分譲住宅については前年同月比で3ヶ月連続の増加(前年同月比5.6%増)となった。非住宅建築は着工床面積については、全体では前年同月比5.1%の減となったが、前年同月比でプラスの分野については、宿泊業向けの前年同月比で48.7%増となっている。他の分野については、総じて前年比マイナスとなっている。</p>	<p>8月の輸入通関実績は42千トン。前月比8,738トン増。韓国、中国、台湾とも入着増となっている。8月の輸出船積実績は175千トン。前月比40千トン減。韓国向け24千トン減、中国向け13千トン減となっている。</p>	<p>8月の全建築物の着工床面積は前年同月比2.4%増の1117万㎡だった。公共建築全体では、1.4%増の43万㎡と前月の減少から再び増加。民間建築全体でも2.4%増の1074万㎡と3ヶ月連続で増加した。構造別では、S造が前月比11.5%減(前年同月比4.0%減)の421万1千㎡、RC造が8.0%増(前年同月比32.2%増)の208万2千㎡、SRC造は、61.7%減(前年同月比64.5%増)の5万㎡。8月の鉄骨需要量(換算鉄骨量)は、推定で前年同月比3.7%減の42万3600トンと7ヶ月連続で前年値を割った。前月比でも12.1%減。</p>
3. 輸出入動向	<p>2019年8月度鋼管輸出量 継目無鋼管：30,742トン (前月比▲10.0%) 溶接鋼管：28,900トン (前月比▲5.7%) 2019年8月度鋼管輸入量 継目無鋼管：1,685トン (前月比+18.3%) 溶接鋼管：11,605トン (前月比▲25.0%)</p>	<p>2019年8月の普通鋼材輸入量は37.2万トン、前年同月比で17.8%増と2ヶ月連続の増加となった。主要品別では、熱延広幅鋼板(11.7万トン、同14.8%増)が4ヶ月ぶり、亜鉛めっき鋼板(7.8万トン、同26.9%増)が2ヶ月ぶり、冷延広幅鋼板(7.0万トン、同10.6%増)が4ヶ月ぶりの増加となった。2019年8月の鋼管輸出実績(生鉄鋼管ベース)は302.4万トン、前年同月比で4.0%減と2ヶ月ぶりの減少となった。普通鋼管輸出量は205.5万トン、前年同月比で1.0%増と2ヶ月連続の増加となった。主要品別では、熱延広幅鋼管(110.9万トン、同17.7%増)が5ヶ月連続の増加となった。一方、亜鉛めっき鋼板(19.4万トン、同20.8%増)が10ヶ月連続、冷延広幅鋼管(17.8万トン、同16.0%減)が4ヶ月連続の減少となった。</p>	<p>8月の輸入通関実績は42千トン。前月比8,738トン増。韓国、中国、台湾とも入着増となっている。8月の輸出船積実績は175千トン。前月比40千トン減。韓国向け24千トン減、中国向け13千トン減となっている。</p>	<p>輸出 7月日形鋼の輸出量は19,631トんで前月比3%増、前年同月比では101%の大幅増となった。薄形鋼の輸出量は7,886トんで前月比57%の大幅増加、前年同月比では横ばいとなった。山形鋼の輸出量は、23,423トんで前月比60%の大幅増加となった。前年同月比では57%の大幅増で、3ヶ月連続の増加。8月の異形棒鋼の輸出量は、15,024トんで前月比39%、前年同月比29%のそれぞれ大幅減となった。輸入 8月日形鋼の輸入量は、5,814トんで前月比58%、前年同月比37%のそれぞれ大幅減となった。</p>
4. 海外市場動向	<p>クラインバイ目下中近東、東南向けを中心にいくつもの大型鋼材入札が行われている。多くが2019年30頃に発注済みで、メーカーの製造は2020-21年頃の予定。また大手市街会出資産物組合が進行しており、資源効率化が加速している。収益の悪化、資源開採事業が淘汰されていく傾向。大手市街業者への懸念も徐々に表面化してきており、業界再編の兆しが見えつつある。＜油井管＞WTIは、2019年4月の時点の\$60/バレルからやや下がりが、\$52-53/バレル台で推移している。米国のリグダウンは、半年前と比較すると更に落ち込んでおり、先行き不透明感が出てきている。一方、中東湾岸産油国の油井管需要は堅調に推移しており、ヨーロッパやアフリカ、インド、パキスタン含めたアジア地域等からも継続して引合が出ています。</p>	<p>中国の8月の粗鋼生産量は、国内の景気対策を背景に8,725万トンと42ヶ月連続で増加し、年間で過去最高となる10億トンに迫る勢いであるが、米中貿易摩擦による内需の鈍化もあり国内で吸収されなれない鋼材が輸出され、アジアの市況を押し下げている。</p>	<p>中国の荷動きは総じて低調。例年であれば秋需と言って、国慶節前に需要が増加する傾向があるが、米中貿易摩擦の影響で荷動きは低調。市況は弱含みで推移している。冬季に入ると唐山地区で減産が行われる可能性があるため、若干の持ち直しも期待されるが、冬季は需要自体も落ちるため、効果は限定的と推測する。</p>	<p>中国国内の9月鋼材市況は、夏場の天候不順でずれ込んだ建設工事が活発化した為、異形棒鋼などは、9月後半に反転上昇したものの、月末に小幅下がった。市況は、3790元/ト(約57千円)。北部を中心に地下鉄などインフラ関連や不動産建築が冬入り前に多く行われ、今後も建設需要は続く見通し。</p>

発表者

発表項目

1. 需給動向（景況感）

（国内）・日本経済は緩やかな回復基調が続いているが、9月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業でプラス5と前回6月調査から▲2ポイントの3期連続悪化となった。米中貿易摩擦を背景に世界経済の減速傾向が続く、輸出や生産活動に勢いが見られないうちで生産機械等を中心に見通しが悪化が目立つ。

・19年度の設備投資計画は大企業では前年度比+6.6%（前同比▲0.8%）と一部計画先送りの動きが見られる。家計部門については、8月の小売業販売額が天候回復でエアコン等の販売増により2ヶ月ぶりに前年同月比でプラスとなったが、韓国の訪日客減などインバウンド需要の減速も見られ、一進一退となっている。

・部門別活動状況は、製造業部門は7月の自動車生産が前年同月比2ヶ月ぶり増加、8月の機械受注実績は3ヶ月ぶりの前月比増加となった。また、人手不足や材料調達ネックによる中小案件を中心とした工期遅れは以前続いているものの、国交省の調査では高力ボルトの納期が3月時点の8ヶ月から6ヶ月に改善している。

（海外）・中国では政府が特別地方債の発行枠拡大でインフラ投資を促進しているが、貿易摩擦影響による内外需の低迷が続き、輸出入や工業生産で回復が遅れている。

・米国や欧州経済は引き続き雇用環境が良好で個人消費は堅調なもの、貿易摩擦の影響懸念で企業の景況感は低下が続く。ASEAN諸国も、外需の減影響により輸出入が減速、自動車の生産販売も下振れ傾向が継続している。

<国内鉄鋼需給>

- （生産）・19年8月の粗鋼生産は前年同月比減（▲7.8%）の812万tで2ヶ月連続の減少。
- （出荷）・8月の普通鋼国内向け出荷は325万トン（前年同月比▲7.6%）で2ヶ月ぶりの減少。輸出向け出荷も202万トン（同▲0.2%）と2ヶ月ぶりの減少。
- （在庫）・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は610万トン（前月比+29万トン）、2ヶ月ぶりに増加。
- ・8月末の薄板3品在庫は457万トン（同+15万トン）、2ヶ月ぶりに増加。
- ・8月末の厚板シャシー在庫は45万トン（同+1万トン）。8ヶ月連続で増加。

2. 需要産業動向

- 〔建築〕・8月の新設住宅着工戸数は7.6万戸（前年同月比▲7%）で2ヶ月連続の減少。分譲が増加し、持家・貸家が減少。非住宅着工床面積は362万㎡（同▲6%）で2ヶ月ぶりに減少。商業・サービス業用は増も、鉱工業等で減。
- 〔自動車〕・9月の国内販売は50.7万台（前年同月比+13%）で3ヶ月連続の増加。
- ・8月の完成車輸出は35.0万台（同▲6%）で4ヶ月ぶりの減少。北米、アジア向けで減少。
- ・7月の四輪生産は89.7万台（同+12%）で2ヶ月ぶりの増加。
- 〔造船〕・9月の新造船受注量は84万GT（前年同月比+26%）の受注。19年9月末の手持工事量は2,172万GT（同▲15%）と減少継続。

3. 輸出入動向

- 〔輸出〕・8月の全鉄鋼輸出は302万トン（前年同月比▲4%）で2ヶ月ぶりの減少。米国、アジア向けで減少。
- 〔輸入〕・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は42万トン（前年同月比+19%）で2ヶ月連続の増加。韓国は2ヶ月連続増（同+15%）、中国は2ヶ月連続増（同+29%）、台湾は2ヶ月ぶり増（+15%）。

4. 海外市場動向

- ・8月の世界粗鋼生産は、中国・インドで前年同月比増加し、1億5,604万トン（前年同月比+3%）となった。
- ・9月の中国粗鋼生産は8,277万トン（前年同月比+2%）、日当たりは276万トン。
- ・9月の中国鋼材輸出は533万トン（前年同月比▲10%）、1-9月累計では前年同期比▲5%。